

KITA-FUNAOKA in 2011



北舟岡

きたふなおか駅
北海道伊達市
昭和38年開業

湾岸鉄路の疾走を追って

伊達紋別を後にすると、列車はほどなく噴火湾の浜辺に取り付く。山手が段丘になっているので、その向こうの様子はうかがえないが、北舟岡のあたりまでは、まだ伊達の市街地。けれども、浜辺にそのまま簡素なホームを横たえる北舟岡駅は、全く孤立した荒涼の停車場という観だ。

それでも、沿線では最も海に近い駅であり、噴火湾に面したホームに降り立てば、無人の空間がえもいわれぬ旅情を呼び起こす。そんなロケーションから、鉄道ファンにはなかなか人気があるようで、周辺では浜辺をひた走る高速特急をと

らえようと、レンズを向けるカメラマンの姿がよく見られる。

小幌と同じ、仮乗降場から昇格した駅にしては、大柄で丈夫な駅舎をもつ。正面に掲げる駅名板には、ご丁寧にも「待合所」と書かれてあり、あくまでも無人の空間でしかないことを念押しするかのよう。短い夏にはオオハンゴンソウが咲きほこる華やかさもあがるが、海風に吹きさらされる冬の厳しさもまた凄まじかろう。

だが、それも含めて四季折々、名場面を演出してくれるこの駅の存在は、誰よりも市民の評価を待ち続けているように見える。